



森田 廣 議長

新年のごあいさつ

皆さまには、輝かしい新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。
県議会では、県民の皆さまの安全・安心な暮らしを守るため、昨年7月の大雨による災害からの復旧・復興や災害に強い県土づくり、物価高騰対策などに全力で取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

決算審査の概要

令和5年度山形県一般会計歳入歳出決算など17決算および決算に関連した5議案は、決算特別委員会における審査を経て、12月3日の本会議において、認定・可決されました。
決算特別委員会の総括質疑における主な内容は右記のとおりです。

総括質疑 (10月29日)



自由民主党
五十嵐智洋 議員
(長井市・西置賜郡選挙区)

◆ 県管理河川の支障木伐採および草刈りの重要性 など



県政クラブ
齋藤俊一郎 議員
(東根市選挙区)

◆ 北村山公立病院への支援をはじめとする持続可能な医療提供体制 など

全国都道府県議会議長会 定例総会が本県で開催

10月31日、山形市内で全国都道府県議会議長会の第179回定例総会が開催されました。総会では自治功労者への表彰のほか、本県の森田廣議長が総会議長を務め、人口減少の克服に向けた少子化対策と地方創生の推進に関する決議など、計6件の決議と国への提言を決定しました。



都道府県議会議員研究交流大会で 山形県議会の取り組みを紹介

11月12日、東京都内で研究交流大会が開催されました。「議会が主体的に行う主権者教育の推進について」の分科会には、本県の矢吹栄修副議長がパネリストとして参加し、生徒・学生との意見交換会や「県議会ナビ」の発行、議場演奏会と議会見学会など、本県議会の取り組みを紹介しました。



地域議員協議会を開催

11月22日、各総合支庁において、地域議員協議会を開催しました。
それぞれの地域における行政課題や施策展開について、地元選出の県議会議員が幅広く調査・審議し、様々な提案を行いました。



東南村山地域議員協議会の様子

「県議会ナビvol.09」を発行

県議会の役割や活動をわかりやすくまとめた若者向け広報紙「県議会ナビ」の最新号を発行しました。
学生と正副議長との座談会や傍聴体験レポートなどを掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

「県議会ナビ」の内容はこちらから



伝統的な工芸品を 受け継ぐ難しさ

小山さんは工人を職とすることの難しさもありません。

「作業には怪我がつきものです。加えて、独り立ちまでの収入も不安定です。師匠がすぐれた理由が今弟子入りを許さなかった理由が今ではよくわかります。」

材料となる「コシアブラ」の成木の調達から、自らの仕事と話す小山さん。山深くに入っては木を切り出し、乾燥させ、「サルキリ」と呼ばれる大きく鋭い刃物で削り出します。大きな怪我が原因となつて、引退する工人もいるそうです。小山さんが話します。



専用の刃物・サルキリを材料となる木に当て、手作業で繊細な彫りを施す笹野一刃彫。常に大怪我のリスクと隣り合わせでもある。

「材料の確保は近年難しくなっています。私たちは、木の幹の太さや曲がり、節などを観察し、笹野一刃彫に適した成木だけを無駄なく切り出します。幼木は将来のために残し、山を荒らしません。」

志田さんがうなずき、話します。「こけしの材料となる板屋楓の成木も近年少なくなっています。家の山で採るほか、業者からも購入しますが、価格が高騰しています。二人の言葉に耳を傾けていた逸



菊摩呂型(右)をはじめ、干支のへびのコスチュームを着たこけし(左)や、相良人形8代目相良隆馬さんに許可を得て「猫に蝸」(中央)のこけしなどを制作する志田さん。

見さんが話します。「伝統的な工芸品は、作る人、技術、材料が揃ってはじめて受け継ぐことができます。後継者が技術の習得に専念できる環境をつくることはもちろんのこと、工芸品の

材料となる木、土、水などを供給する地域の自然環境も守っていく必要があるのではないのでしょうか。」

守るべき伝統として 次代につなぐために

小山さんは、先人の自然の恵みに対する感謝の心や、厳しい冬を耐え抜く粘り強さが、山形の優れた工芸品を生み出してきたと話します。

「お鷹ぼっぼ」は、五穀豊穣を願う農家の守り神が起源だったそうです。時代の流れの中で、玩具、魔除け、縁起物、インテリアなど、求められる用途が変わり、意匠も変わりました。」

小山さんの言葉に、従来の伝統的なこけしのほか、ユニークな創作こけしを手掛ける志田さんが応えます。

「私をはじめ好きになったこけしは、創作こけしだったんです。創作こけしがきっかけで、伝統的なこけしが好きになるファンもいます。こけしは産地ごとの特徴で系統に分けられますが、菊摩呂こ

けしは、いろいろな系統が混ざっている独自の作風のこけしです。だからこそ挑戦できることも多いと思います。」

二人の言葉に逸見さんが応えます。「伝統的な工芸品は、少しずつ変化を続けながら受け継がれて今があります。工芸品を作り、届ける立場の私たちは、何を残し、何を変えていくのかを絶えず考え、発信していくことが大切だと思っています。まずは、多くの方々に、小山さんや志田さんの制作の実演を見てもらいたいですね。きっと魅力が伝わるはずですよ。」



素材であるスゲの栽培にはじまる花笠づくりも、後継者不足が課題になっている。次代へとつなげるため、逸見さんは社内に花笠の工房を設けるなどし、承継に取り組んでいる。